



三馬作
 奇譚
 合奏
 大和繪師 國筆



江戸戯作者三馬作



大和繪師 國筆

特別
 ^13
 3971



13
3971

三馬戯作

三馬戯作 ⊕ 西宮新版

三馬戯作の
人けりて
なまら



池田宿遊君

錦繪

澤山孝太夫娘おまら

編笠のぬす

岩ト

花形虎之助

曲豆園画





羅山文集云日光山有天狗好棲息于長杖猶是愛宕

山大杉栄術太郎之所居之類也歟蓋指鬼魔而言也

夫天狗者星名也我朝浮屠修驗者欲恐怕世俗扇惑

庸愚而使已術雋之故唱天狗名以訇之歟但深山幽

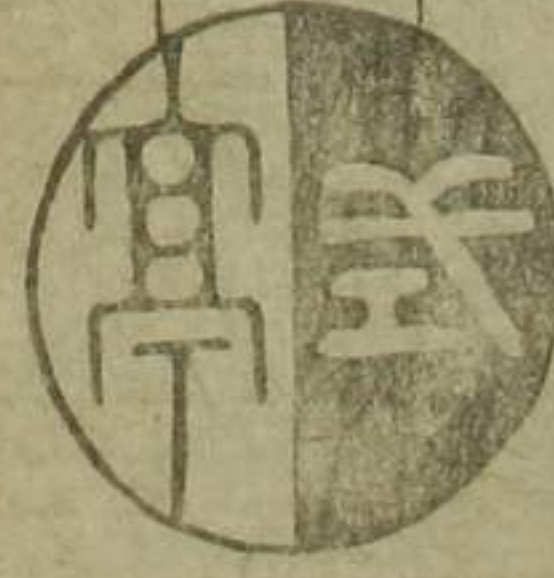
谷其氣之所及則山都木客亦有之乎猶如大海有鯨

鯢又奚疑之云

天狗利生

鬼兒嶋名譽仇討全八卷

三馬戲撰





大 27



全快のあしはつたの市安あまを
 りてあまのあしはつたの市安あまを
 いまのあまのあしはつたの市安あまを
 あまのあしはつたの市安あまを
 あまのあしはつたの市安あまを

刑のあまのあしはつたの市安あまを
 刑のあまのあしはつたの市安あまを
 刑のあまのあしはつたの市安あまを
 刑のあまのあしはつたの市安あまを
 刑のあまのあしはつたの市安あまを



刑のあまのあしはつたの市安あまを
 刑のあまのあしはつたの市安あまを
 刑のあまのあしはつたの市安あまを
 刑のあまのあしはつたの市安あまを
 刑のあまのあしはつたの市安あまを

刑のあまのあしはつたの市安あまを
 刑のあまのあしはつたの市安あまを
 刑のあまのあしはつたの市安あまを
 刑のあまのあしはつたの市安あまを
 刑のあまのあしはつたの市安あまを

二之卷



此の巻に記すは、
 昔の事なり。此の
 鳥は、
 鳴きやまらば、
 此の世に
 災は起る。



此の鳥は、
 鳴くは、
 此の世に
 災は起る。

此の世に
 災は起る。



角力
 力士
 土俵
 土俵
 土俵
 土俵

力士
 力士
 力士
 力士
 力士
 力士



力士
 力士
 力士
 力士
 力士
 力士

東の鬼見島と與陀陀



この鬼の首を切りしむるは
八咫の鏡の御魂を
西の國の神に
まろての
大木の下に
ついでに
の四つ
二天の
うさぎ

▲此の鬼の首を切りしむるは
八咫の鏡の御魂を
西の國の神に
まろての
大木の下に
ついでに
の四つ
二天の
うさぎ

うさぎ

うさぎ

嶽の駒能勝る負の圖



この鬼の首を切りしむるは
八咫の鏡の御魂を
西の國の神に
まろての
大木の下に
ついでに
の四つ
二天の
うさぎ

▲此の鬼の首を切りしむるは
八咫の鏡の御魂を
西の國の神に
まろての
大木の下に
ついでに
の四つ
二天の
うさぎ





卷之三



刑部もつとせりて
 知るふのふらに
 そのまふまふに
 刑部もつとせりて
 知るふのふらに
 そのまふまふに
 刑部もつとせりて
 知るふのふらに
 そのまふまふに
 刑部もつとせりて
 知るふのふらに
 そのまふまふに

刑部もつとせりて
 知るふのふらに
 そのまふまふに
 刑部もつとせりて
 知るふのふらに
 そのまふまふに
 刑部もつとせりて
 知るふのふらに
 そのまふまふに
 刑部もつとせりて
 知るふのふらに
 そのまふまふに

刑部もつとせりて
 知るふのふらに
 そのまふまふに
 刑部もつとせりて
 知るふのふらに
 そのまふまふに
 刑部もつとせりて
 知るふのふらに
 そのまふまふに
 刑部もつとせりて
 知るふのふらに
 そのまふまふに

三笑亭可樂製

三笑亭可樂製
 風流新製 御歌貴餅
 中上... 三笑亭可樂製
 其の...
 刑部もつとせりて
 知るふのふらに
 そのまふまふに

風流新製 御歌貴餅
 中上... 三笑亭可樂製
 三笑亭可樂製







おのれは
おのれは
おのれは



おのれは
おのれは
おのれは



おのれは
おのれは
おのれは

おのれは
おのれは
おのれは

四之卷







雲の道に立ちて
 神の御姿を
 見奉るは
 心もたれど
 言はずも
 神の御姿
 見奉るは
 心もたれど
 言はずも
 神の御姿
 見奉るは
 心もたれど
 言はずも

雲の道に立ちて
 神の御姿を
 見奉るは
 心もたれど
 言はずも
 神の御姿
 見奉るは
 心もたれど
 言はずも



雲の道に立ちて
 神の御姿を
 見奉るは
 心もたれど
 言はずも
 神の御姿
 見奉るは
 心もたれど
 言はずも

